永遠の命がある未来を追い求める人々、
高齢社会を恐れる人々

10月12日 上映開始
PLAN 75

そう遠くない未来の高齢社会を舞台としたこの映画は、東京出身の監督である早川千絵の作品です。『PLAN 75』では、瑶子、ヒロム、マリアという3人の若者と、ミチと幸夫という2人の老人が、＜とある事柄＞を進めるために集まった。

７８歳の角谷ミチは、国家の負担になりたくないという理由から、最近まで客室清掃員として勤めていた。ところが突然解雇され、現住の共同住宅も取り壊されることになり、行き場を失いかける。人生を終えるにはまだ早いが、どれほど努力しても、仕事も、住居も、お金も、必要な医療もないミチは、＜プラン 75＞の対象者になってしまう。

＜プラン 75＞ 従業員の岡部ヒロムと成宮瑶子の２人にとって、＜プラン 75＞での仕事は、ありきたりなサービス業だ。ところが彼らは顧客と接している中で、＜プラン 75＞のシステムの存在に疑念を抱き始める。

マリアは、日本在住の数多のフィリピン人介護職員の１人。母国にいる娘を養うため、老人ホームに勤めるが、収入は低く、娘を養うのには不十分だ。そんな折、彼女は＜プラン 75＞の高給の仕事を見つける。

10月12日 上映開始
PLAN 75

早川千絵の、日本の超高齢社会をディストピアに変貌させたこの作品は、捻りの効いた、人間味あふれる物語である。しかし、『PLAN 75』は暗い話ばかりではない。ミチ、マリア、ヒロムの３人の道を追うことで、早川監督は人生と日常のささやかな喜びを讃える。物語の中心は、自立した高齢者であり、最後の選択肢として＜プラン 75＞を選んだ、倍賞千恵子が演じるミチである。

「現実的で、心に響く作品」アンドレアス・シュライナー（NZZ）

早川千絵

映画祭と賞（厳選）:
2022 年アカデミー賞：国際長編映画賞の日本代表
2022 年カンヌ国際映画祭：「ある視点」部門正式出品 、カメラドール 特別表彰
2022 年テッサロニキ国際映画祭：最優秀監督賞、国際映画批評家連盟賞（FIPRESCI 賞）、ヒューマンバリュー賞
2022 年トビリシ：ＥＵ人権賞
2022 年 QCinema 映画祭： 主演女優賞、 アーティスティック・コントリビューション賞
2019 年タレンツ・トーキョー：タレンツ・トーキョー賞
2023 年フリブール国際映画祭： Grand Prix, Critics’ Choice Award, Comundo Youth Jury Award
2023 年ニッポンコネクション日本映画祭 フランクフルト：映画祭オープニング作品